旭地域明木地区のおたから

◆ 街道による人・物の交流と思いやりの中で生まれ栄えた明木のおたから

明木の地名は、安芸の殿様（毛利公）から検地での褒美として名前を賜ったとの説がありますが、表舞台に登場するのは「萩往還」をはじめとする街道が整備されたことによります。明木地区には、道を保護する石畳のほか一里塚・駕籠建場（かごたてば）・高札場の跡などの交通施設、宿駅の町割が色濃く残っています。その歴史の中には「彦六・又十郎」の心暖まる逸話や、幕末の動乱や吉田松陰先生に関する要素も残されています。明治になってからは、私財を投じて文化芸術への支援・人材育成や日本最初期の村立図書館の創設に力を注いだ瀧口吉良（よしなが）（明城）翁などの功績によって明木は発展しました。

地域の成り立ちから発展へと続く「利他・思いやり」に満ちた一連の要素が明木のおたからです。

おたからの一例

一升谷の石畳

赤間関街道中道筋の分岐点

明木市の町並み

昔の町の地割

御用屋敷跡　原家

彦六・又十郎伝

西来寺の彦六・又十郎の碑

明木の教育や文化の発展に貢献した瀧口吉良翁

瀧口吉良翁が建設に貢献した旧村立明木図書館

旭地域佐々並地区のおたから

◆ 萩往還の宿場町を中心に栄えた心のよりどころ、佐々並

佐々並は、平安時代から人里が存在し、近世には萩往還の宿場町・佐々並市を中心に栄え、周囲の自然とともに育まれた暮らしの営みが息づく美しい山里です。街道沿いには、旅の平安祈願や災厄の進入を拒む野の神、往還（みち）を舞台とした事件や出来事についての言い伝えが残っています。山々は、中国山地の西端に位置し、萩市の屋根を形づくっています。険しいながらも山紫水明で、巨木や滝など自然の見どころも数多くあります。

江戸時代の厳しい生活の中でも、山林の恵みを享受する農林業と宿場という交流の地を併せ持ち、維新の動乱期も経て、生き続けてきた生活と周囲の自然が、佐々並地区のおたからです。

おたからの一例

萩市の屋根でもある佐々並の山々

佐々並を干ばつから救った云われのある淵ヶ平の滝

萩往還の宿駅として栄えた佐々並市の町並み

萩往還に残る落合の石橋

雪の萩往還

人々を見守ってきた首切れ地蔵

集落ごとに行われてきたお地蔵様のお接待

お地蔵様を運び込んで祝う地蔵婚

佐々並の集落ごとに競うおいでん祭縄ない競争

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業 2013

萩のおたから

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業では、地域のおたからを再発見して、「萩のおたから」として地域から推薦し、市民が互いに認め合い、データベースで公開して活用する取り組みを行っています。これからも、萩のおたからを未来に引き継ぐため、萩市民が協力しあい、守り育て、いかす活動を進めていきます。

萩のおたから（文化遺産）とは…

- 地域らしさを作り出している「もの」や「こと」
- 地域のことを物語る上で欠かせない「もの」や「こと」
- 地域のたからとして大切に守り伝えていきたいと思う「もの」や「こと」

平成 25 年（2013）度の活動

2013	1 月 31 日	第 1 回実行委員会
	6 月 21 日	第 2 回実行委員会
	8 月 18 ～ 19 日	地域おたからワークショップ in 旧松本村／明木 入門講座『萩まちじゅう博物館おたから再発見』　講師：西山徳明教授 ワークショップ　松陰神社境内／明木周辺でおたから調査 おたから情報の整理
	9 月～	各地（浜崎・旧松本村・むつみ・旭）で現地調査・資料調査 地域おたからマップ作成 地域交流イベント企画・準備
	10 月 12 日	旧松本村地区 地域交流イベント 「維新の里を歩こう会」
	11 月 16 日	むつみ地域 地域交流イベント 「晩秋のむつみを満喫しよう！」
		旭地域佐々並地区地域交流イベント 「ささなみ伝建まちなみ探訪！」
2014	1 月 18 日	旭地域明木地区 地域交流イベント 「明木てくてく見て歩き～カメラとおさんぽ編～」
	2 ～ 3 月	各地で推薦するおたからの検討・推薦資料作成
	2 月 26 日	文化遺産認定委員会
	3 月 18 日	萩まちじゅう博物館おたから総会 各地域からおたからを推薦発表、 市民が「萩のおたから」として認定

Hagi Machijyu Hakubutukan
萩まちじゅう博物館

平成 25 年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）

文化庁 AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

浜崎地区のおたから

◆ 港で栄えた商家町

浜崎は、萩の三角州の北東のはし、阿武川下流の松本川が日本海に注ぐ河口に開けた町です。海と川とを間近に控えた浜崎は、萩城下の港町として栄えました。藩政期には、主に回船業を営む人々、酒、味噌、醤油などの生活物資を商う人々、魚市場を中心とした水産業に関わる人々が住んでおり、藩の経済活動を支えるとともに、北前船も寄港し、大いににぎわっていました。また、藩の御船倉ほか近くの漁村や島々を治める浜崎宰判もありました。

海や船との関わりの中で栄えた町並み、蔀戸（しとみど）や虫籠窓（むしこまど）の町家、浜崎の町人たちが自ら勧請した海上安全の守り神・住吉神社、船道具やはかり、引札（ひきふだ）といった商いの道具、家々に伝わる品々が浜崎のおたからです。

おたからの一例

藩主の御座船を納めた御船倉

城下二大祭礼の一つ住吉祭り

江戸時代から続く鶴江の渡し

斉藤家に伝わる坂本龍馬の茶碗

町年寄須子家の諸事控え

中村船具店の霧笛（むてき）

今も使われる松浦家の蔀戸

昔の広告　引札

町並みの中にある泉福寺

旧松本村地区のおたから

◆ 松陰先生のふるさと、旧松本村

天保元年（1830）、萩城下を見下ろす松本村の団子岩と呼ばれる地に生まれた吉田松陰先生は、後に松下村塾を創始する叔父玉木文之進から厳しい教育を受け、10歳で藩校明倫館の兵学師範となり、19歳頃までこの地で過ごしました。その後、下田での海外密航を企てた罪により萩で幽囚の身となった松陰先生は、安政４年（1857）、実家杉家のそばに８畳の塾舎を建て、松下村塾を継ぎました。松陰先生は、「学は人たる所以（ゆえん）を学ぶなり。塾係（か）くるに村名を以（もっ）てす。」と『松下村塾記』に記し、村名を冠した塾名に誇りと責任を感じ、志ある人材を育てようとしました。

松下村塾や誕生地など、松陰先生にまつわる史跡群が、松陰先生のふるさと、旧松本村のおたからです。

おたからの一例

城下を見下ろす松陰先生誕生地

松陰先生の叔父
玉木文之進の旧宅

松本村の名を冠した松下村塾

松陰先生の墓

松陰先生を祀る松陰神社

松陰先生の門下を祀る松門神社

松陰先生の遺品を保存する
松陰神社宝物殿至誠館

松陰先生の永訣の書を
刻む石碑

松陰先生も歩いたであろう新道

むつみ地域のおたから

◆ 恵まれた自然地形と先人から引き継がれてきた田園風景、暮らしの証（あかし）

むつみ地域は、中国山地の山々に囲まれた盆地で、中央を蔵目喜（ぞうめき）川が流れ、その周辺に集落が点在する農村です。古くは阿武単成火山群の噴火により生まれた伏馬（ふすま）山や千石台（せんごくだい）などの自然地形を背景に、その肥沃な土壌には古くから人々が住み、古代の土器や集落遺跡、古墳など、人々が脈々と生きてきた証が各所に残されています。

盆地を囲む山々には、中世の戦乱の名残を留める山城や大内氏の遺跡などがあります。また、藩政時代に置かれた奥阿武宰判の勘場跡をはじめ、石州街道や阿武郡十九ヶ村の要の地として栄えた名残があり、田園風景とともに農にまつわる祭礼や小祠・野仏が伝わっています。

恵まれた自然地形と先人から脈々と引き継がれてきた田園風景と暮らしの証が、むつみ地域のおたからです。

おたからの一例

盆地に広がる田園風景

伏馬山と田園風景

古代の記憶を伝える穴観音古墳

中世の山城跡（大将山）

奥阿武宰判の勘場跡

先祖から引き継がれてきた石仏様

古くから伝わる神楽舞を
復活させたむつみ神楽

農業近代化の先駆けとなった
揚水ポンプ

人々の暮らしを潤してきた清水池
－羽月（はづき）の湧水